

人口分布から中国の多様性を捉える

～拡大図の活用と複数の資料図を比較・関連づけた活用の仕方～

福岡市立宮竹中学校 松下 誠

1. はじめに

帝国書院『中学生の地理 初訂版』において、中国では、人口、農業、工業を調べる視点で、国内の地域の違いに注目してその地域的特色を探究することになっている。本稿では人口に着目する。また、地図帳p.17～18基本図、p.19～20拡大図、p.21～22資料図を使う。

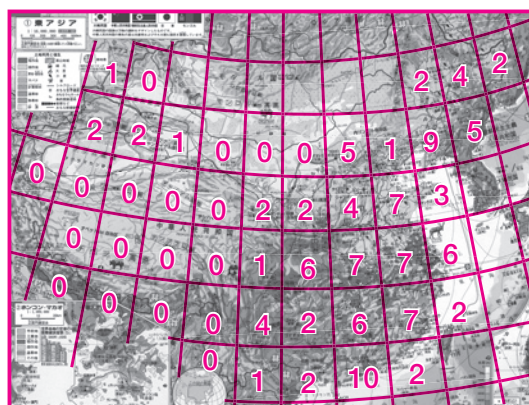
2. 地域による人口の違いを具体的に捉えさせる

中国には人がほとんど住んでいない地域もあれば、人の多い農村や大都市もある。このことを、都市の分布、人口密度、行政区別人口から捉えさせたい。

(1) 拡大図の活用（メッシュ法的手法）

まず、「中国における都市の分布を調べよう」とよびかけ、p.19～20の拡大図において、緯線と経線に囲まれた範囲を1マスに見立てて、その1マスの中に人口20万人以上の都市がいくつあるかを中国全土について調べさせ、地図に数を書き込ませる。すると都市が多く見られるのは東部、とくに南東部の沿岸地域であることを捉えさせることができる。

次に、「都市はどのような地形や土地利用のところに多いか調べよう」とよびかける。調べさせると、大部分の都市は長江中下流平原など東部の河川沿いの水田や畑が広がる平原が海岸沿いにあることを捉えさせることができる。また、p.134『③世界のおもな都市の人口』を使えば、全75都市中に中国の都市が16都市もあり、「世界的に見ても中国には大都市が多い」ことに気づかせることもでき



「中学校社会科地図 初訂版」p.19～20

る。学習を深めるためにはこれらの都市が発達した理由も調べさせるようにしたい。

(2) 複数の資料図の比較・関連づけ

p.22の資料図『人口密度』をもとに、「なぜ、中国の人口密度は東高西低なのか」と問い、理由を多面的に考察させたい。具体的には、個人またはグループ単位で、p.17～18基本図または人口密度に関係がありそうな資料図をp.21～22から一つ選ばせ、p.22の資料図『人口密度』と見比べさせ、理由を考えて発表させる。この活動を通して、人口密度の高低は地形や気候、農業生産、鉱工業生産、経済格差等と関わりがあることを捉えさせることができる。

3. 人口分布の変動の様子を捉えさせる

中国における都市人口比率は年々高まっている。p.22の資料図『経済格差』をもとに、国内の人口移動の様子（内陸から東部の沿岸部の都市へ）とその規模を調べさせるとともに理由を考察させるようにしたい。